し得るや否や疑問なり。10)的確率は160例中臨床診斷と一致せるもの91.9%、耳鼻咽喉科領域のみの診斷確定せられたるもの 122例にては90.2% なり。(藤田抄)

急性咽喉頭疾患と氣象との關係

木村　謙次

耳鼻咽喉科 11卷 11號 1021頁(昭和13年11月)

昭和7—12年に於ける栃木縣立宇都宮病院耳鼻咽喉科外來患者中、急性咽喉頭疾患を宇都宮測候所に於ける同年間の氣溫、濕度及氣壓の數量的測價と對照して本症の發生と氣象の變化との關係を調査せり。急性咽喉頭疾患特に急性喉頭加答兒及急性咽頭加答兒は、氣溫甚だ低く、濕度甚だ少く、氣壓高く、而して是等較差の大なる月に於て最多數なり。次に居住地別に考ふるに市內患者は 2、1、6及11月に多く、市外患者は 9、8 及5月に多し。之は市內の人は郊外の人よりも一般に身體の抵抗力弱く從つて氣象の激變多き冬季及風塵量多き春季に罹患し易きものなるべく、反之郊外の人は夏季に激しき日射と雷雨等による著しき氣象の變化を受けて野外勞働をなす事多き爲なるべし。次に性別は咽後膿瘍の少數例を除けば何れも男子に多く、女は1、3及12月に多し。之亦居住地別の場合と同じ理由によるなるべし。更に年齡關係を見るに21—30歳の患者最多數なり。以上の如く急性咽喉頭疾患は氣象の變化と密接な關係ある事明らかなり。其他風塵、空氣「イオン」とも深き關係を有するものなるべし。(野崎抄)

軟耵聹及び腋臭症の遺傳に就きて

鈴木　安恒

耳鼻咽喉科 11卷 12號 1087頁

軟耵聹と腋臭とを合併せる二家系に就き、その遺傳的關係を調査せり。第一例41歳男、軟耵聹及腋臭あり、軟耵聹は、當人の母、兄弟及び當人の子及び兄弟の子にあり、腋臭は、當人の父及び兄弟及び當人の子及び兄弟の子にあり、共に明かに優生遺傳をなすと認めらる。唯軟耵聹と、腋臭との相伴ふ場合及相伴はざる場合に就きては未だ證明し得ず、第二例27歳女にて當人、母、母方の伯父二人及び伯父の娘一人に何れも軟耵聹、腋臭の互ひに隨伴せるを認めたり。之により軟耵聹と腋臭症とは共に優生遺傳をなす事を認めたれど、兩者の合併狀態に就きては必ずしも併行せざるが如し。(奥山抄)

七十六匹を算した外聽道有生異物(蛆)の一例

小島　　錄
難波　一郎

耳鼻咽喉科 11卷 12號 1092頁

患者は42歳の日本人男子(人夫)。主訴右耳痛及耳鳴。既往に耳疾患なし。患者は今回の支那事變に人夫として山西省方面に赴き、或鐵橋の修理のため溝の溜り水に潜り作業せる後間もなく右耳に不快感を覺え、其後次第に難聽、耳鳴、耳痛加はり睡眠障碍を來せり。局所所見、右外聽道の稍深部に異樣に蠢くもの多數に見られ全く外聽道を閉鎖し、よく見るに蛆の集りなり。數回耳洗を行ひ蛆76匹、同時に無數の蛔卵を洗ひ出せり。耳洗後の外聽道は一般に發赤し、下壁には上皮剝離、出血を見、鼓膜は一般に發赤あるも穿行は無く、自覺症も全く去れり。

(西尾抄)

咽頭痛を主訴とせる「チフス」性咽頭潰瘍に就て

吉田　　一

耳鼻咽喉科 11卷 12號 1104頁

18歳の女子、高熱及び咽頭痛を主訴とせるも「レ」線及び內科的には胸腹部に著變を見ず。右側軟口蓋に一個の示指頭大の淺在性潰瘍あり、表面は白苔にて被はる。潰瘍邊緣には輕度の發赤を認む。其後潰瘍は次第に擴大し懸壅垂、軟口蓋及び右側頰部粘膜にも白斑生じ、周圍は輕度に發赤し境界は分明なり。其後臨床上並に細菌學的、血淸學的檢査に依り腸「チフス」なる事を確定せるも咽頭潰瘍よりは B. faecalis alkailgenes のみ證明し得て、「チフス」菌は之を見ざりき。潰瘍は次第に拇指頭大に擴大し、咽頭痛及び嚥下痛激しく嚥下不能嗜眠狀態となり發病後略3週間にて遂に不幸なる轉歸を取り

たり。(渡部抄)

「ドツゲンナーゼ」(Doggnnase)の整形手術例

大野 武

耳鼻咽喉科 12卷 1號 (昭和14年1月)

23歳女、先天性輕度の「ブルドツグ」鼻に對してヨゼフ氏の楔形擧上法に則る整形に成功せり。即ちヨゼフ氏著書にある如く皮膚切除を加へ三角柱狀の小瓣を皮下組織と共に剝離、擧上し鼻橋の整形を考慮しつゝY形に縫合す。剩餘の部分は楔形切除により剪除す。鼻中隔の可動部は「クラン」を以て固定縫合をなす。創面の汚染及び組織の壞死發生に注意し、術後16日にして全治退院す。(藤田抄)

上顎竇蓄膿症の鼻內手術に續發せる急性上顎骨々髓炎に就て

高村 正次

耳鼻咽喉科 12卷 1號 14頁

47歳男、某專門醫に慢性上顎竇蓄膿症の鼻內手術を受けたるに當夜より右鼻孔より惡臭ある血性膿汁排出し、惡寒、發熱、右側下眼窩部特に內背部腫脹劇痛あり、直ちに切開排膿、腫脹減退瘢痕を殘して全治せり。然るに2ケ月後口蓋に潰瘍を生じ約10日後に穿孔し、惡寒、發熱、顏面腫脹、惡臭ある鼻汁減少せず阪大耳鼻科に入院す。赤血球沈降速度迅速なり。局所は右側顏面浮腫狀に腫脹し壓痛あり。右側鼻腔には多量の惡臭ある膿性分泌物あり。鼻底部は骨面露出し灰黃褐色を呈し腐骨の如し、鼻中隔は骨部大部分缺如し、又右側副鼻腔側壁は缺如し上顎竇全內壁悉く汚穢灰白色の苔にて覆はる。口蓋は正中線に大穿孔あり、邊緣は潰瘍を形成し一部は腐骨となり露出す、齒牙健全なり。入院3日目頃より全身、局所狀態良好となれるも其後4週間目頃より全身狀態重篤となり、竇內の壞疽及び口蓋潰瘍進行し、穿孔擴大、次第に心臟衰弱し、入院50日目に壞疽部より出血あり鬼籍に入れり。本症は蓄膿症の鼻內手術による外傷性傳染により起りしものなり。上顎竇蓄膿症の鼻內手術にあたりては本症の如き不幸なる合併症を續發することあるをもつて特に術後の消毒大切なり。(岡部抄)

右側急性前額竇炎の一死亡例
(附)前額竇炎の統計的觀察

清水 宗次

耳鼻咽喉科 12卷 1號 18頁

19歳の男、頭痛特に右側前額部痛を訴ふ。從來兩側副鼻腔炎あり。感冒に罹り6日目に全身違和、右眼周圍及び右前額部の自發痛起り惡寒戰慄を以て發熱す。4日後該部著しく腫脹す。診るに兩側中鼻道に多量の濃き膿汁あり。兩側前額部、右側上眼瞼部、左側々頭部より顴骨突起、下眼瞼部及び左側鼻翼部に發赤腫脹强く右前額部に最も壓痛强く波動著明なり。2日後試驗穿刺を行ひて濃厚惡臭ある帶黃褐色の膿汁を證明す。更に2日後前額竇根治手術を施行し皮下膿瘍より膿汁30ccを得たるも前額竇と直接交通路なき事を認む。術後一般症狀好しからず、更に3日目より敗血症狀を呈し、胸部症狀著明に合併し來り、術後9日目氣管枝肺炎にて仆る。

前額竇炎の本邦文獻47例中男に多く69%にして、年齡は12—76歳にして壯若年者に多し。側は左27側にて大多數を占む。急性症狀を呈せるもの28例にて慢性より急性惡化せるもの多く、合併症は急性症狀を呈せるものは前額部皮下膿瘍並に眼窩蜂窠織炎、慢性症狀を呈するものは前額部皮下膿瘍、視神經炎多し。死亡例は4例なり。(今西抄)

熱湯誤嚥に因る咽喉頭湯傷に就て

高坂・知市

耳鼻咽喉科 12卷 1號 40頁

滿二歳の女兒、鐵瓶より熱湯を口呑みす。其瞬間號泣せしも間もなく泣き止む。一般狀態侵されず、唯幾分不機嫌の表情をなすのみ。下口唇より頤部に輕度の湯傷あり。呼吸困難なきも哺乳時稍々嚥下障碍あるが如き表情をなす。口蓋垂は强く浮腫狀に腫脹し軟口蓋、咽頭後壁も亦强く發赤すれども水泡、義膜樣物質なし。喉頭粘膜も一般に發赤し、食道入口部に白色義膜